

学会報告 医局会(2016)

レジデント 寺内稜

第54回日本網膜硝子体学会 第32回日本眼循環学会 合同学会

会長

日本網膜硝子体学会

東 範行 (国立成育医療研究センター眼科・視覚科学研究室)

日本眼循環学会

大路 正人 (滋賀医科大学 眼科学講座)

会期

2015年12月4日(金)～6日(日)

会場

東京国際フォーラム

第54回日本網膜硝子体学会
第32回日本眼循環学会 合同学会

慈恵医大からの演題

一般演題

- 診断・検査 座長 **林孝彰**

学術展示

- 黄斑色素スクリーナーによる中心性漿液性脈絡網膜症における黄斑色素量の測定
寺内稜
- コロイデレミアに合併した黄斑円孔が自然閉鎖を認めた1例
石川邦裕
- Relentless placoid chorioretinitisのSD-OCTと眼底自発蛍光による評価
徳久照朗
- ステロイド治療後に黄斑部外層障害の改善がみられた日光網膜症の1例
小松功生士
- 27ゲージ小切開硝子体手術における強膜創作成角度による術後眼圧の比較
高階博嗣

第54回日本網膜硝子体学会
第32回日本眼循環学会 合同学会

学会の様子①

一般演題(口演) 診断・検査 座長 林孝彰

片眼性のnegative ERG 木戸愛

網膜色素変性の錐体細胞径変化 村上祐介

前部虚血性視神経症と脈絡膜造影 貫吉安信

原田病再発の有無とMBR変化 広岡季里子

OPTOS-FAFでみたAZOOR 橋本英明

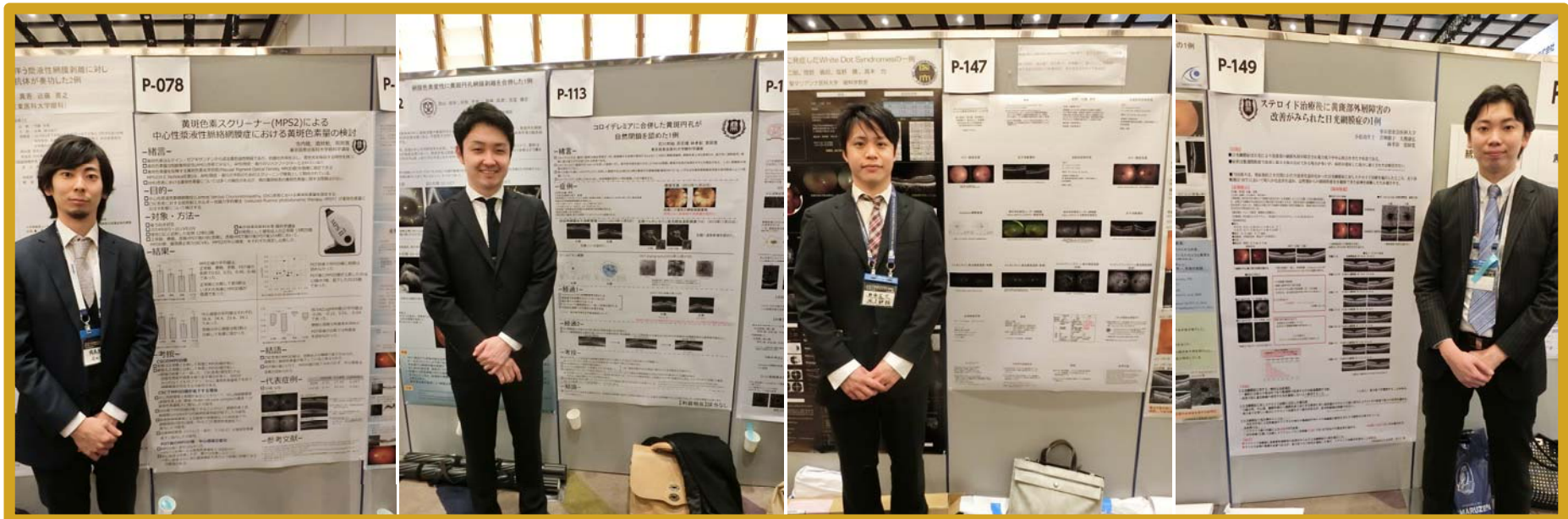
超広角ICG蛍光眼底造影 小南あおい



第54回日本網膜硝子体学会
第32回日本眼循環学会 合同学会

学会の様子②

学術展示の様子



黄斑色素スクリーナー(MPS2)による 中心性漿液性脈絡網膜症における黄斑色素量の検討

寺内稜, 酒井勉, 常岡寛
東京慈恵会医科大学眼科学講座



—緒言—

- 黄斑色素はルテイン・ゼアキサンチンから成る黄色油性物質であり、抗酸化作用を示し、青色光を吸収する特性を持つ。
- 黄斑色素量は加齢黄斑変性(AMD)患者で少なく、AMD発症・進行のリスクファクターとされている¹⁾。
- 黄斑色素量を反映する黄斑色素光学密度(Macular Pigment Optical Density, MPOD値)を簡便に測定できるMPS2(M.E. Technica社製)は、AMD発症・進行の予防のためのスクリーニング検査として期待されている。
- AMD患者における黄斑色素量については多くの報告があるが、他の黄斑疾患の黄斑色素量に関する既報は少ない。

—目的—

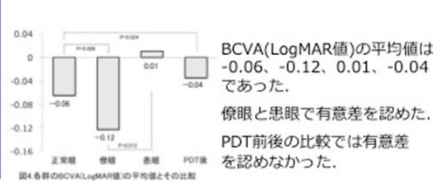
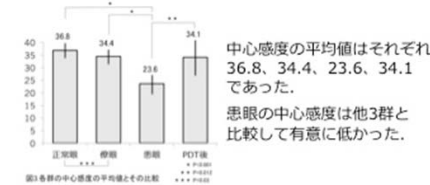
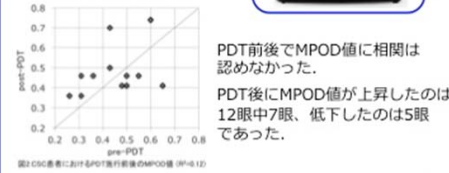
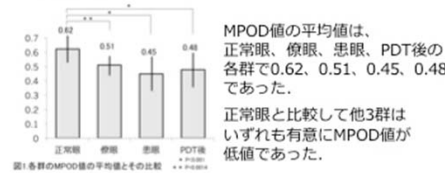
- 中心性漿液性脈絡網膜症(Central Serous Chorioretinopathy, CSC)患者における黄斑色素量を測定する。
- CSC患者に対する低照射エネルギー光線力学的療法(reduced-fluence photodynamic therapy, rfPDT)が黄斑色素量に及ぼす影響について検討する。

—対象・方法—

- 後ろ向き研究
- 2014年8月—2015年2月
- 慢性CSCと診断した症例 12例12眼
- 正常眼、傍眼、患眼rfPDT施行前(患眼)、患眼rfPDT施行後(PDT後)の4群において、MPOD値、最高矯正視力(BCVA)、MPS2の中心感度を、それぞれ測定し比較した。
- 東京慈恵会医科大学 眼科学講座
- 対照群として健康成人の正常眼 13例25眼



—結果—



—考按—

CSCのMPOD値

- 患眼は正常眼と比較して有意にMPOD値が低い。
- 傍眼も正常眼と比較して有意にMPOD値が低い。
⇒既報の結果²⁾と一致した。CSC患者(慢性型)では両眼性発症や再発を繰り返す場合が多く、SRDがみられなくてもサブクリニカルに黄斑色素量低下を伴う網膜障害が存在する可能性がある。

CSCでMPOD値が低下する理由

- 中心窩網膜厚と相関があることから²⁾³⁾、中心窩網膜障害(網膜色素上皮-錐体-Muller cell cone complexの障害?)が黄斑色素量低下に関与した可能性。
- SRD眼でMPOD値が低下することから³⁾、網膜色素上皮-脈絡膜complexからの黄斑色素供給が低下した可能性。
- 脈絡膜循環障害による酸素や栄養物などの供給低下や、網膜環境の変化(温度、Phなど)が黄斑色素量低下に関与した可能性。
- 自律神経異常(ストレス・疲労・うつなど)が黄斑色素量低下に関与した可能性。

PDT後のMPOD値・中心感度の変化

- MPOD値に変化はなかった。
⇒PDTの影響による黄斑色素量低下は認めない。
- 中心感度は改善したが、視力は改善しなかった。
⇒中心感度は中心窩の錐体機能を視力より鋭敏に評価できる可能性がある。

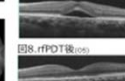
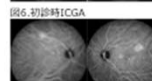
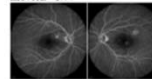
—結語—

- CSC患者のMPOD値は、患眼および傍眼で低下がみられ、両眼性に黄斑色素量が低下していると考えられた。
- PDT施行後1カ月で、MPOD値の低下はみられず、中心感度は改善が認められた。

—代表症例—

- 50歳 女性

	MPOD値	中心感度	LogMAR視力
初診時	0.55	27.55	0.097
rfPDT後	0.41	33.53	0.097



- 図5 初診時FA
- 図6 初診時ICGA
- 図7 初診時OCT (1.00 × 0.05)
- 図8 rfPDT後(0.05)
- 図9 両眼性にアーケード内の造影漏出は認められ、左眼中心窩領域に造影漏出を認める。
- 図10 FAO領域の上へ一致して脈絡膜血管造影で造影した網膜障害を認める。
- 図11 左眼中心窩に造影剤滞留を認め、網膜色素上皮層に造影剤が滞留している。左眼の網膜厚もPDT後減少している。

—参考文献—

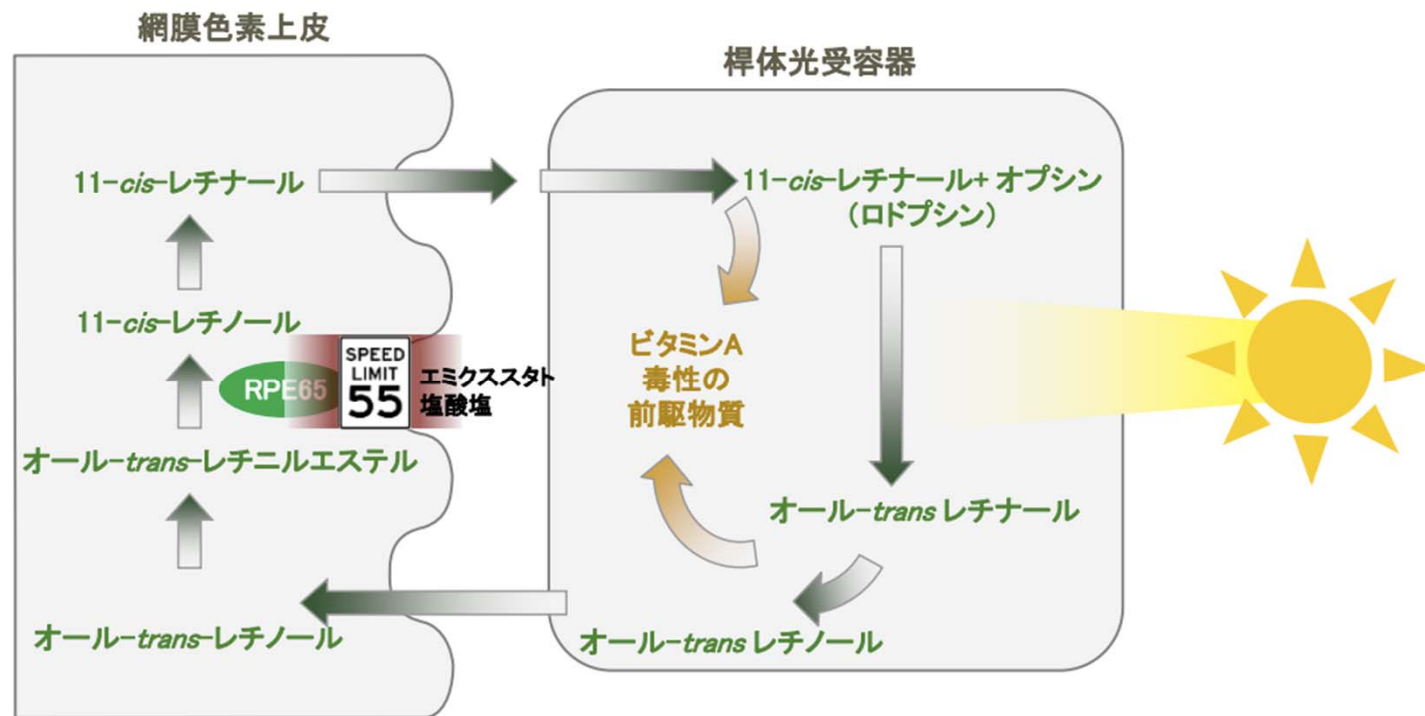
- Age-related Eye Disease Study Research Group: The relationship of dietary carotenoid and vitamin A, E and C intake with age-related macular degeneration in a case control study. AREDS Report no.22. Arch Ophthalmol 125: 1225-1232, 2007
- Sasamoto Y, et al: Macular Pigment Optical Density in Central Serous Chorioretinopathy. Invest Ophthalmol Vis Sci 51: 5219-5225, 2010
- 橋田由緒: 黄斑色素スクリーナー(MPS2)による中心性漿液性脈絡網膜症における黄斑色素量の検討. 眼科 69 (8): 1225-1231, 2015

第54回日本網膜硝子体学会
第32回日本眼循環学会 合同学会

学会の様子③

シンポジウム

『黄斑変性疾患に対する有望な新規治療法としての視覚サイクルモジュレーション』 窪田良



投与開始から90日経過後の病変の変化 Lesion Size Change From Baseline at Day 90

	プラセボ (N=18)	Mean (SD) Change From Baseline for Study Eye エミクススタ塩酸塩*		
		2mg qAM (N=12)	5mg qAm (N=12)	5mg qPm (N=12)
CP				
Total area, mm ²	0.4 (0.7)	0.2 (0.5)	0.3 (0.5)	0.1 (0.5)
n	9	11	10	8
FAF				
Total area, mm ²	<u>0.2 (0.4)</u>	<u>-0.1 (1.4)</u>	<u>0.0 (0.2)</u>	<u>0.0 (1.0)</u>
n	8	11	4	8
FA				
Total area, mm ²	0.4 (0.5)	0.2 (0.6)	0.5 (0.5)	0.2 (0.6)
n	12	12	10	9

*Lesion data were not analyzed for the 7 mg qAM and 10 mg qAM cohorts.

CP, color photography; FAF, fundus autofluorescence photography.

最後に



第33回日本眼循環学会 2016年9月3日～4日
第55回日本網膜硝子体学会 2016年12月2日～4日